

答申における条件への対応（回答）

2024年3月4日 三井石油開発

「冬期の「飲用井戸水」に関する水質モニタリング頻度の検討」（2023年11月6日付答申）では、飲用井戸水と河川水等について、積雪期は安全に採水することが可能な限り月1回の頻度で採水・分析することが認められた。また、「土壌調査（積雪前）の降雪による中止の報告と今後の対応について」（2023年12月4日付答申）では、土壌調査（積雪前）の降雪による中止への対応として水質モニタリングを追加することが認められた。これらの2つの答申では、諮問事項を認めるにあたっての条件が示されており、その対応について下記のとおり回答する。

答申における条件への対応

| 答申日 | 諮問事項 | 答申における条件 | 条件への対応（回答） |
|----------|---------------|--|--|
| 23/11/21 | 冬期の水質モニタリング頻度 | 融雪期や大雨時にはやや注意が必要となるため、季節変動も考慮して再び分析頻度を増やすこと（例1回/週） | 噴出現場周辺地域で融雪開始が予想される2024年3月15日から5月15日まで、飲用井戸水と河川水について、水質分析の頻度を週1回とする※ |
| | | 融雪期の分析結果をふまえ、その後の分析頻度を対策の状況も考慮して改めて計画すること | 2024年の融雪後の分析頻度は、融雪期の分析結果をふまえて改めて回答する |
| | | 少なくとも今後1年程度は、上記の対応を継続すること | 今後1年は上記の対応を継続し、それ以降は2024年の測定結果を踏まえて改めて回答する。 |
| | | 本諮問と答申への過程も公表対象にすること | （委員会ホームページにて諮問および答申の内容を公開済みである） |
| 23/12/11 | 水質モニタリング | 測定項目に水温を測定すること | 採水時に水温を測定する |
| | | 融雪期には調査頻度を高め、濁りがなにかなどについても留意すること | 採水時に水試料の近接写真を撮影・記載して濁り状況を記録するとともに、分析項目に濁度を追加する |
| | 融雪後の土壌調査 | 安全を十分に確認できた段階で、できるだけ速やかに調査を行うこと | 融雪後に速やかに調査を実施できるように準備中である |

※ 残雪によって採水作業者の安全性を確保すること、あるいは接近することが困難な地点では、採水を行わない。

※ 採水業者の手配状況によっては採水日が3~4日ほど前後する可能性がある。

参考：積雪期の水質分析結果

積雪期間中の砒素の分析結果は次表のとおりであり、水道水基準あるいは環境基準（砒素 0.01 mg/L）より低い濃度であることを確認している。なお、地点名「日の出別荘」と「雪秩父」は飲用井戸水、「大湯沼 1」・「大湯沼 2」・「ちせばし」は沼および河川であり、「地下水観測孔」は噴出箇所の下流側に位置している。

積雪期間中の水質分析結果

| 地点 ID | 地点名 | 砒素濃度 (mg/L) | | | | 諮問日 |
|-------|---------------------|-------------|-----------------------------|--------|-----------|---------|
| | | 23/12/14 | 24/1/12 (b-2 のみ 24/1/18) | 23/2/8 | 定量 下限値 | |
| X1 | 日の出別荘 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.001 | 23/11/9 |
| V3 | 雪秩父 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.001 | 23/11/9 |
| O1 | 大湯沼 1 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.001 | 23/12/4 |
| O2-3 | 大湯沼 2 (馬場川上流) | 0.001 | 0.002 | 0.002 | 0.001 | 23/12/4 |
| BX1 | ちせばし (ニセコアンベツ 2 号川) | 0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.001 | 23/12/4 |
| b-2 | 地下水観測孔 | 採水無し | <0.001 | 採水無し | 0.001 | 23/12/4 |

注：「<」は定量下限値未満であることを示す

以 上